

はじめに

この度岐阜経済大学地域経済研究所における平成10年度の研究活動の成果をまとめた『地域経済』第19集を刊行する運びとなりました。

当研究所では、平成10年度は新たに所員による自主的な共同研究「流域を単位とする水管理型社会システムの構築に関する研究」が始まりましたが、あわせてソフトピアジャパンとの共同研究「岐阜県地域産業の経営課題と情報ネットワーク戦略に関する研究」が3年目の最終年度を迎え、まちづくりに関しては一昨年度の「公民パートナーシップによるまちづくり手法の研究」、昨年度の「住民主体型まちづくりシステムの調査研究」に引き続き、本年度は大垣地域産業情報研究協議会との共同研究「まちづくり市民活動の育成・支援のあり方に関する調査研究」が実施されました。

こうした共同研究活動を中心として、調査見学会や研究会などを実施し、市民の方々にもご参加いただき公開講演会を開催いたしました。さらに、本年度は市民の方々のご要望に答え「市民ゼミナール」を新たに実施することとし、「日本人の“待ち心”今昔」(武井勇四郎経済学部教授)と『「女らしさ」の政治学」(中村共一経営学部教授)の2クラスを開講して好評をえました。これについては、来年度以降さらに発展させていきたいと考えております。

こうしたさまざまな活動を踏まえて、本号ではソフトピアジャパンとの共同研究の成果のうち中心市街地活性化に関する論文および地域福祉情報システムに関する論文3つを取り上げて特集「地域活性化と情報化」を組み、あわせて上記流域研究の中間的な研究成果として4つの論文を取り上げました。

また、東洋大学の吉田敬一教授にお願いした公開講演会「経済構造転換と産業集積地域の21世紀への課題—地域経済と中小企業の活路打開の方向を探る—」の講演記録も掲載することいたしました。

なお、『所報・地域経済』が平成11年7月復刊されましたので、東濃研究学園都市および大阪・ナニワ企業団地の調査見学会の記録はこちらの方に掲載いたしました。ご興味のある方は『所報』をぜひともご覧下さい。

以上平成10年度の研究活動の一端をまとめて、お届けいたします。今後とも所員一同研究に励んでいく所存でございます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成11年12月

岐阜経済大学
地域経済研究所長

間仁田 幸雄